# 大崎タイムス〔平成25年12月19日(木)〕

大崎中央高生らに講話する古川東RCの会員

## 仕事の大切さ講話

### 大崎中央高でキャリアセミナー　古川東RCが1年生対象に

古川東ロータリークラブ（古川東RC、奥山浩二会長）は13日、大崎中央高（佐々木哲校長）で「キャリアセミナー」を開き、1年生62人に仕事の大切さなどについて講話した。

会員、会員が経営する企業の従業員、30歳未満の青年でつくる同RC傘下の奉仕クラブ「古川東ローターアクトクラブ」から計9人が講師となり、2回ずつ講話。生徒たちは、希望する講師2人から話を聞いた。

このうち、接骨院や介護事業を手掛ける櫻田裕代表取締役は「チャンスが巡ってきても、つらいことがある。同じ状況で繰り返さないよう、覚悟を決め向かうことが大切」と。さらに「高校生のうちに日本語力を身につけることが特に重要。そうすれば社長にもなれる」と国語の勉強の重要性を指摘した。

セミナーは、高校生の早い段階から職業に対する意識を持ち、進路選択の参考にしてもらおうと、職業奉仕委員会（早坂竜太委員長）が2009年度から毎年実施している。

10年度に受講した前年度卒業生は、就職、進学とも希望進路100%を達成した。就職100%達成はここ数年なかったといい、同校進路指導部の高橋昌全部長は「古川東RCの皆さんから現場の話を聞いたことが、希望進路達成に役立っていると思う」と感謝していた。

朝日新聞〔平成25年10月20日(日)〕

# 仙台圏が「一人勝ち」

## 周縁部の疲弊続く

現場から 知事選 10/27 3

大崎市の七日町中央通り商店街は、JR古川駅と市役所の間にある。その一角で9月、5階建て災害公営住宅の建設が始まった。

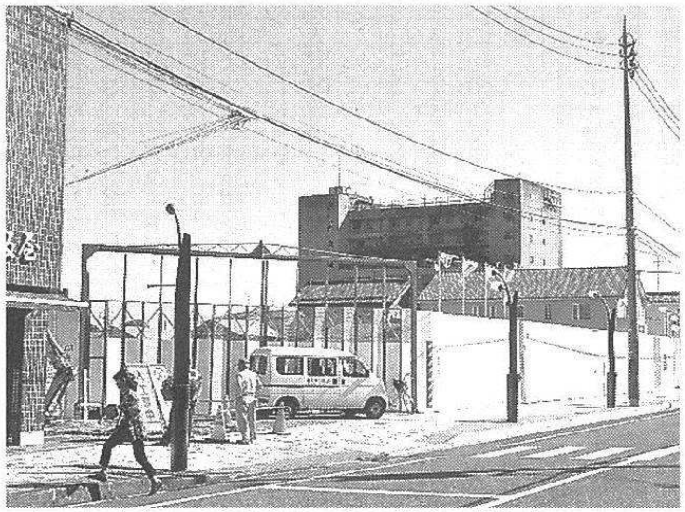
1980年代、この商店街を歩く人は平日でも4千人を超えた。2010年には5分の1に減り、かつての一等地に空き店舗や駐車場が目立ち始めていた。

そこに大震災。大崎市は3月、商店街や市役所、市立病院がある94ヘクタールの再開発計画をまとめ、「内陸部の復興モデル」をめざす。柱の一つが、中心部での災害公営住宅の建設だ。

苦渋の策にも見える市の選択が市民に受け入れられたのは、10年以上閉じたままの商業ビルやホテルが公営住宅の建設地に残っていて、景観を損ねていたことが一因。中心部で空洞化が進む現実を商店主らが直視したことも大きい。

総事業費は市の概算で160億円。ホテル解体や住宅建設には復興交付金などを国から引き出せるため、市の負担は4分の1ほどで済みそうだ。

再開発を国の資金に頼る背景には大崎市内の地価が低迷していることがある。今夏時点の基準地価は25の調査地点の大半で前年より下がった。



七日町中央通り商店街の一角で災害公営住宅の建設が始まった。後方中央のホテル跡も壊され、公営住宅が建てられる―大崎市古川

古川駅前で40年間、不動産業を営む「古川土地」の早坂竜太社長は「東北一の大都市である仙台に近すぎることも原因の一つ」。新幹線なら十数分、高速バスでも1時間ほど。買い物客が吸い取られていく。

基準地価の県内全体の平均は22年ぶりに上昇に転じたが、その原動力は、仙台圏10市町村だった。岩沼市から大衡村にかけて仙台圏には、津波被災地から被災者が引っ越したり、復興需要で県外からサラリーマンが流入したりしている。

仙台圏の「一人勝ち」は企業誘致にも表れている。08年以降に県内に立地した主な45社のうち、仙台圏が23社。村井嘉浩知事がトップセールスを展開したトヨタ自動車東日本やその取引先も、ここに集まる。

周縁部の疲弊は、県北だけではない。

山形県境にあり過疎化が進む川崎町は、昨春閉校した小学校にコールセンターを誘致した。ここ15年間で児童の数が3割近く減った川崎町は昨春、八つの小学校を四つにまとめた。その廃校の一つだ。

秋田県内の廃校でコールセンターを運営しているDIOジャパン(本社東京)に町から声をかけ、町民ら30人の雇用が生まれた。

16日、県庁で、県と町、DIO社が立地協定を結んだ。「企業立地の偏在の解消につながるのでは」との記者の問いに、小山修作町長は答えた。「その通り。県には仙南にも目を向けてもらっていたが、立地はなかなか進まなかった」

仙台圏への過度な一極集中をいかに解消するか。震災前からの課題は、積み残されたままだ。

(古庄暢、田中美保、島田博)

# 古川ゴールデンパレス跡地
# 災害公営住宅に整備

## JVが大崎市と協議

大崎市は、東日本大震災で被災した住宅が自力再建できない低所得者などを入居対象とした「災害公営住宅」170戸の整備を進めている。市中心部の古川地域は4カ所に計120戸を買い取り方式で整備予定。このうち1カ所20戸は、優先交渉権事業者となった共同企業体（JV）が、旧ホテル古川ゴールデンパレス（古川十日町）の土地を取得して建設することを目指し、市当局と協議を進めている。

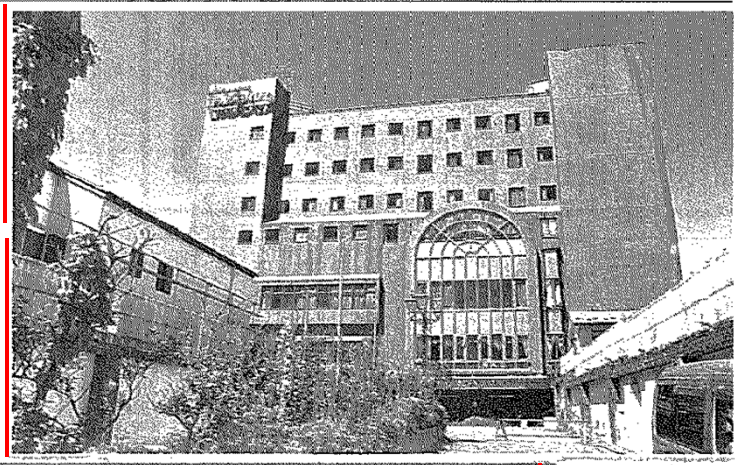
同市が災害公営住宅の第2次公募型プロポーザルを行った結果、古川3社と仙台2社でつくるJV「古川土地・SUN・伸晃・北陵・大和企業グループ」（代表企業・古川土地）が優先交渉権事業者に決定した。

同グループの提案は、2002年廃業した同ホテルを解体し、新たに災害公営住宅を建設する内容。まだ正式決定ではないが、現段階の計画では7階建て20戸で、延べ床面積約1400平方㍍。間取りは1DKから3LDK。駐車場は25台分を整備予定。市当局との協議が調えば、地権者より土地建物を正式に取得する契約を締結している。

同ホテルは1980年開業。建物は地上7階と地下1階で、客室、結婚式場、レストランなどがあった。廃業後10年以上も利用されず廃虚状態となっており、地震や暴風によるガラス破損などの被害もある。非行少年やホームレスの侵入による警察への通報がたびたびあり、放火の危険性もあるなど、防犯上、防災上の観点や、中心市街地再生のため、早急な対応が求められていた。

市民からは「災害公営住宅が中心部に整備され、まちなか居住が実現すれば、中心商店街の活性化などにもつながる」と期待する声が聞かれる。また、近隣の民家や商店との境界が狭小だが、JVが難工事に挑戦することで各種課題の解決が図られることを期待する声もある。

古川地域では、駅東、七日町、駅前大通の3カ所で災害公営住宅整備が決まっている。鹿島台地域45戸、田尻地域5戸は、買い取り方式ではなく、市が直接建設する。市は、来年度末までの整備を目指すという。



災害公営住宅の整備が計画されている旧ホテル古川ゴールデンパレス

復興へ頑張ろう！みやぎ

むすび丸

大崎タイムス

発行所
大崎市古川駅前大通5丁目3番23号
大崎タイムス社
http://www.osakitimes.com

●代表電話
TEL(0229)22-2181㈹
FAX(0229)22-2195
●編集局　22-2187
●編集支局　22-8633
●読者局　22-2198
●広告局　22-2182
●印刷局　22-2183

伝統の技と心一手づくりの酒
純米酒　一ノ蔵
取扱店　佐々源商店

## こよみ

9月1日(日)旧7月26日
（若潮）

| | |
|---|---|
| 日出 | 5.06 |
| 日入 | 18.07 |
| 月出 | 0.57 |
| 月入 | 15.17 |
| 月齢 | 25.2 |

（日・月の出入りは仙台市基準、潮汐は鮎川港）

| | 時間 | 潮位 |
|---|---|---|
| 満潮 | 14.36 | 40 |
| | — | — |
| 干潮 | 7.02 | −32 |
| | 19.20 | 22 |

大崎タイムス〔平成25年7月28日（日）〕

# 再会喜び古里思う

## すきです三本木 東京で総会 早坂、遠藤両氏顧問に

首都圏在住の大崎市三本木地域の出身者などでつくる親睦組織「すきです三本木」（相沢昭男会長）の第4回総会と懇親会がこのほど、東京都内で開かれた。会員と来賓合わせて約60人が参加し、再会を喜び合うとともに、遠く離れた古里に思いをはせた。

同組織は2010年に「ふるさと応援団」として発足。毎年、会合を開いて交流するほか、三本木地域のイベントPRなどにも協力している。大崎市内の他地域にも同様の組織はあるが、出身者だけでなく地域のファンも加入できるのが同組織の特徴だ。

東京都台東区の上野グリーンパークで開かれた総会では、新年度事業計画に加え、前年度事業報告や決算報告を原案通り承認。三本木まちづくり協議会の佐藤仁一郎会長が広報紙「さんぼんぎねっと」の年間購読の申し込みを受け付けた。

また、組織発足時から地元と組織とのコーディネーターとして尽力してきた古川土地の早坂竜太社長と、前大崎市三本木振興公社社長の遠藤栄悦さんを新顧問に選任した。早坂社長は「古里への熱い思いを発信してくれている先輩方が多くいることを誇りに思う。思いを市民レベルで受け止め、地元の良さを私たちが再認識することも大切」と話していた。

懇親会では、古川東大崎地区出身で会員の渡辺やす子さん（芸名・渡辺星幸）が作詞、作曲した「ひまわり音頭」に合わせて参加者で踊ったり、方言を当てるゲームを楽しんだりして、三本木地域の発展を願った。

東京で行われた「すきです三本木」の総会

大崎タイムス〔平成25年6月6日(木)〕

# 各地歩き市民と交流

## 大崎 宝大使の横綱白鵬関

大崎市の観光大使「おおさき宝大使」を務める大相撲の横綱白鵬関(28)が5月28～30日の3日間、およそ9カ月ぶりに同市を訪問した。史上3位タイとなる25度目の幕内優勝を果たした夏場所千秋楽から2日後の大崎入りで疲労もピークの中、宮城野親方や部屋の後輩力士らと精力的に市内各地を歩き、市民と触れ合った。訪問先の様子などを写真で振り返る。

（5月30日付～1日付で一部既報）

ＪＲ古川駅で市民から熱烈な出迎えを受ける（28日）

あ・ら・伊達な道の駅で。ファンに囲まれる横綱の姿を、かつての〝奥州の覇者〟伊達政宗公も見守る（28日）

「祝25回優勝（全勝）」と書かれた古川土地の懸垂幕を新幹線ホームから眺め、思わず笑顔。右は懸垂幕を掲げた古川土地の早坂竜太社長（28日）

「草相撲発祥の地」鳴子温泉神社を参拝。優勝報告と来場所以降の必勝祈願のため、神前に玉串をささげた（28日）

大崎産の野菜にこだわったメニューで知られる「野菜厨房Ｚｅｎ」（古川）で昼食（29日）

一ノ蔵（松山）で杜氏（右）に酒造りについて質問。同社の商品を愛飲しているといい、蔵内を見学しながら試飲も楽しんだ（29日）

## カメラアングル

松山の刀匠、9代目法華三郎信房さんの指導の下、大鎚を振るい、日本刀製造の一端に触れる（29日、法華三郎日本刀鍛錬所）

大崎市民病院の建設事業安全祈願祭に宮城野親方（右）らと出席（29日）

ヘルメットに横綱のサインをもらった作業員も（29日）

大崎タイムス〔平成25年6月6日(木)〕

# 大型絵本

## 古川東RCが寄贈

### 大崎市図書館へ31年間も

田口館長（右）へ大型絵本を手渡す高橋会長

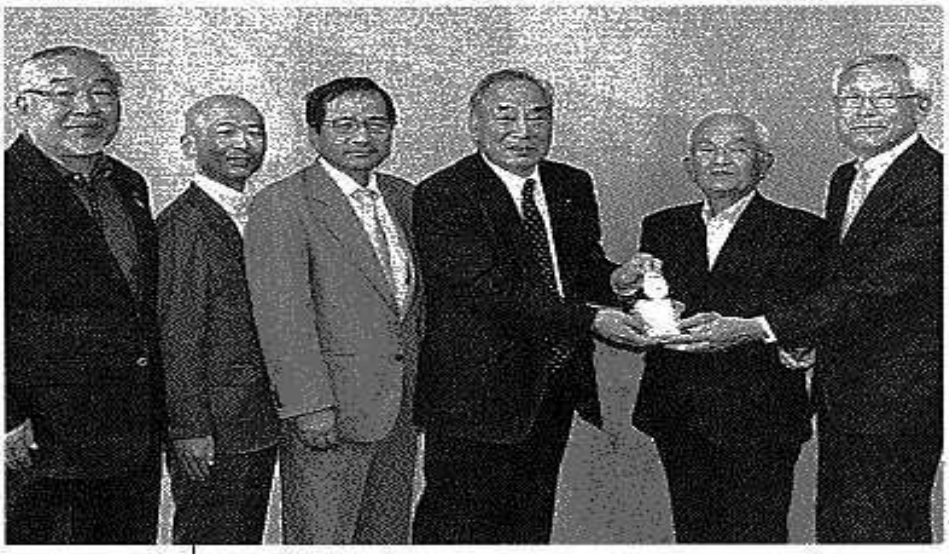
古川東ロータリークラブ（高橋和夫会長、会員数33人）は4日、社会奉仕活動の一環として、大崎市図書館へ大型絵本6冊（4万9425円相当）を寄贈した。

1982年から子ども向けの本などを毎年贈り続けている。31年間の寄贈冊数は約900冊。図書館側の希望で、近年は大型絵本にしている。

今年寄贈したのは、祖父と孫の絆を描いた「おじいちゃんのごくらくごくらく」をはじめ、「おとうさん・パパ・おとうちゃん」「たからものはなあに？」など。作品は図書館職員で選んだ。

贈呈式は例会に併せ行われた。高橋会長から絵本を受け取った田口新一館長は「大型絵本は、子どもたちへの読み聞かせに役立っている。毎月第2、3土曜などの読み聞かせ会で活用し、幼稚園や保育所にも貸し出したい」と感謝していた。

# 大崎タイムス〔平成25年5月18日(土)〕



矢内教育長（右端）に手渡す高橋会長ら役員

## 防犯ブザー765個寄贈

### 古川東RCが大崎市教委へ

### 古川地域の新入児童用

古川東ロータリークラブ（高橋和夫会長、会員数33人）は14日、大崎市教育委員会を訪れ、古川地域の新入児童用に防犯ブザー765個を寄贈した。

新世代奉仕委員会（早坂竜太委員長）の事業として、2011年度から実施。市内他地域で活動するロータリークラブもあるため、古川地域の新入児童に限定している。

古川東ロータリークラブが寄贈したブザー

ブザーは、下部のひもを引くと警報音が鳴る。ベルトを使いランドセルに取り付けることも可能。「古川東RC」とクラブ名も入れた。

この日は、高橋会長、奥山浩二会長エレクト、中鉢喜信幹事、早坂委員長が代表して訪問。

ブザーを受け取った矢内諭教育長と伊東敬一郎教育委員長は「毎年の寄贈に感謝したい」といい、4人は「子どもたちが凶悪犯罪に巻き込まれないよう、有効利用してもらえれば」と話していた。

**大崎タイムス〔平成25年3月10日(日)〕**

# 復興祈念し交流深める

## 首都圏大崎連協と大崎ネットクラブが総会

## 早坂(古川土地社長)、堀江(旧田尻町長)両氏顧問に

「首都圏大崎連絡協議会」と「大崎ネットクラブ」(いずれも佐々木欽三会長)合同の第6回総会が2日、大崎市の姉妹都市、東京都台東区で開かれた。会員と来賓合わせて約80人が参加し、復旧、復興に向け歩む故郷の話題に花を咲かせながら交流を深めた。

議事では、前年度活動報告、本年度行事計画などを承認。重点課題として、地元の特産品などを詰め合わせた「(仮称)安全安心新鮮ふるさと大崎うまいもの便」実現に向け、みやぎ大崎観光公社や市観光交流課と協議することなども確認した。

また、協議会発足時から行政など地元とのパイプ役として尽力してきた古川土地の早坂竜太社長と、欠かさず出席している旧田尻町長の堀江敏正さんの2人を新たに両団体の顧問へ選任した。

このほか、伊藤康志市長が「震災からの2年 これからの創生・大崎」と題し講演。インフラや公共施設の復旧状況、防災・減災体制強化に向けた取り組み、今月中に正式決定する「中心市街地復興まちづくり計画」などを説明。4~6月の「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(DC)」に向けた市独自のポスターやガイドブックも紹介し、協力を求めた。

引き続き懇親会が行われ、鹿島台在住の平たかゑさん(日本コロムビア)、古川東大崎地区出身の渡辺星幸さん(EMIミュージックジャパン)がそれぞれ歌謡ショーを開催。

早坂社長からは、大崎タイムス社の震災記録誌第2弾「3・11絆―東日本大震災一年の記録」が紹介され、購入の申し込みを受け付けた。

同連絡協議会は、旧市町単位の在京組織や高校同窓会などの役員らで2008年に設立。ネットクラブは、在京の同市出身者や同市を支援したい個人、企業なども加えた組織として11年に結成された。

第7回総会は来年3月8日の予定。

大崎ネットクラブ

講演する伊藤大崎市長

新たに顧問へ選任された早坂社長(左)と堀江旧田尻町長